

# 「日本再建」

討議資料

## 「ブレない・媚びない・投げ出さない」政治

未曾有の世界同時不況、北朝鮮による核実験、年金や雇用の問題など、わが国は現在、大変危機的な状況にあります。今こそ政治家がリーダーシップを発揮し、先頭に立って、この国難に立ち向かうべきであるにもかかわらず、実際には目先の人気取りに追われる「政治屋」ばかりが跋扈し、国民の政治への信頼は地に堕ちています。

ポピュリズムに走るあまり、主張が二転三転したり、保身のために派閥のボス、党幹部の言いなりになる政治家は、もはやいりません。また、いったいどこの国の政治家なのか分からないような外交姿勢も言語道断です。もちろん、自らの責務を全うすることなく、敵前逃亡するなどはもっての外。これでは国民の信頼を失うのも当然です。

私たち平沼グループは結成にあたり、「政策の政治」を標榜しました。選挙が近づくと、与党も野党も国民に耳にだけ心地のよい政策ばかりを並べ立てます。しかし、ここで肝心なのは、どんな政策を掲げるかだけではなく、それをいかに成し遂げるか、なのです。

日本人が本来大切に育んできた美德、美風を取り戻し、国民に夢と希望を与えるため、そしてこの国を今一度立て直すために、たとえ捨て石となっても信念を貫き通す覚悟です。

国民の皆様にお誓い申し上げます。私たちは決して、ブレません。媚びません。投げ出しません。



ひら ぬま たけ お  
**平沼 越夫**

元経済産業大臣・北朝鮮拉致議連会長

## 平沼グループ五つの誓い

1

**日本の「伝統・文化・歴史」を守り、真の独立国家を目指します。**

○自主憲法の制定と国の安全保障の確立。「効率追求至上主義」に代わる価値観として「連帯社会」を提示。

2

**「安心・安全な生活」を保障します。**

○年金・医療・介護の仕組みの抜本的見直しと安心制度の構築。○安定した雇用の確保と格差の解消。  
○子育て支援による少子化対策の徹底。○食料自給率の引上げによる食料安全保障の確保。  
○拉致問題の一日も早い解決。○郵政民営化の弊害排除。

3

**「力強い経済」を実現します。**

○経済の底割れ回避を最優先。  
○中小企業の皆様の活力維持に万全を期す。  
○ピンチをチャンスに変える成長戦略の実行。

4

**「温かみのある地域社会」を復活します。**

○地域の医療・教育の財源として道路財源を活用。  
○地域の共生活動の支援。

5

**「政治家が自ら始めます。」日本を救う道はそこからしか始まりません。**

○議員定数の大幅削減、議員歳費の大胆な見直し、議員特権の廃止。○官僚を国民の真の奉仕者に。



# 平沼グループ政策綱領（抜粋）

21世紀初頭、目指すべき進路を見失った日本の政治は、その活路を「アメリカ型市場主義」に求めました。しかし、その結果は、経済格差の拡大とセーフティネットの破綻であり、多くの国民が傷を負い苦しんでいます。国内の少子高齢化の進展に伴う生産・消費の停滞、財政赤字の拡大、さらには、21世紀初頭のこうした「失政」による経済格差の拡大とセーフティネットの破綻が重なり、日本の将来に国民は深刻な不安を抱えています。

そうした状況の下で、今、国民が本当に求めているものは、政権を争う「数の政治」ではなく、真に日本の将来を打開できる「政策の政治」です。我が国の運命を託すための選択が行われようとしている今、国民の皆様が知りたいことは、「誰がやるか」ではなく「何をやるか」です。

「数の政治」をめぐる政党同士が争う中、私たちだけは、しっかりと国民の皆様のみを見つめ、この国を導く政策を提示します。

「数」や「権力」に屈しない「政策の政治」。そのうえで、これをいかに成し遂げるかを真剣に追求してまいります。私たちのゆるぎない信念は、そこにあります。

私たちが目指すもの、それは国民の生命・財産をしっかりと守り、安心して暮らせる「生活」を作ることです。それによって国民全体の活力が生まれてきます。そこから、日本人であることに誇りを持てる国を取り戻すことができます。

今後は、行き過ぎた効率追求至上主義を改め、日本が本来持っていた「温かみのある社会」や素晴らしい「伝統・文化・歴史」、その中で育まれてきた「共に支え合う社会」を大切に守っていくことこそが政治の基本である、と私たちは信じています。与野党・マスコミを問わず、あたかも自明の理であるかのように唱えられた「改革のための改革」「改革自体の礼賛」が伝統を大切にする温かみを持った日本社会と、ものづくりを命としてきた日本経済の足腰をいつしか脆弱なものにしてしまったのではないのでしょうか。

私たちは、決して内向きの閉鎖的な保守主義を目指すものではありません。真に世界に開かれた、また世界の発展に貢献する国を目指します。安心・安全を保障しない政治の下で、国民は自国を愛することはできません。そして自国を愛せない国民が世界の友人を愛せるはずはありません。

自公か民主かという二者択一の選択に、日本の将来を委ねることはできません。

私たちは、日本人としての大切な原点と価値観に立ち返り、政党間の争いに流されることなく、国民の皆様だけを直視し、奇をてらわず正々堂々と「まっとうな政治」を行って参ります。こうした政治を実現するためにも、改めて国民の皆様にお誓い申し上げます。



**私たちは決して、ブレません。  
媚びません。投げ出しません。  
信念の政治でまっとうな日本を取り戻します！**